

歯科保健部会報告

第 3 次熊本市歯科保健基本計画 進捗と中間評価

第 3 次熊本市歯科保健基本計画 進捗と中間評価一

1. 計画期間の延長について

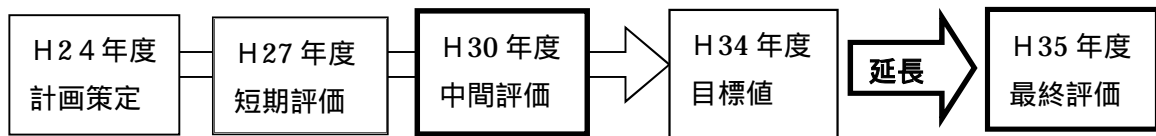
第 3 次熊本市歯科保健基本計画は、熊本市第 7 次総合計画、第 2 次熊本市食の安全安心・食育推進計画、第 2 次健康くまもと 21 基本計画との整合を図るため、1 年間延長することとした。

計画の期間：H 2 5 年度～3 4 年度までの 1 0 年間

平成 3 5 年度までに延長

中間評価：平成 3 0 年度

最終評価：平成 3 5 年度



2. 第 3 次熊本市歯科保健基本計画の中間評価について

(1) 中間評価の方法

各指標項目の評価については、健康日本 2 1 の中間評価に準じ、基準値と現状値を比較して、その達成状況により 4 段階 (a . b . c . d) で評価した。

【目標達成率の算出式(%)】(現状値 - 基準値) / (目標値 - 基準値) × 100

a : 10 % 以上の改善又は目標達成 b : 変わらない(-10 % 以上から 10% 未満)
c : 10 % 以上の悪化 d : 指標の把握方法が異なる等により評価困難

(2) 成果指標の達成状況 (資料 2)

(3) 中間評価の結果

1. 結果の概要

成果指標全ての項目について、その達成状況を評価した結果は下記のとおり。
a は 16 項目で、そのうち既に目標に達しているのは 3 項目であった。

評価の判定基準	全体
a : 10 % 以上の改善又は目標達成	16 (59.3 %)
b : 変わらない(-10 % 以上から 10% 未満)	4 (14.8 %)
c : 10 % 以上の悪化	7 (25.9 %)
d : 評価困難	0
合計	27 (100%)

目標達成した項目

- 1 . 高校生における歯肉に炎症所見を有する者の減少
- 2 . 60 歳で 24 本以上の自分の歯を有する者の増加
- 3 . 80 歳で 20 本以上の自分の歯を有する者の増加

(4) 各ライフステージにおける現状と課題、今後の主な取り組みについて

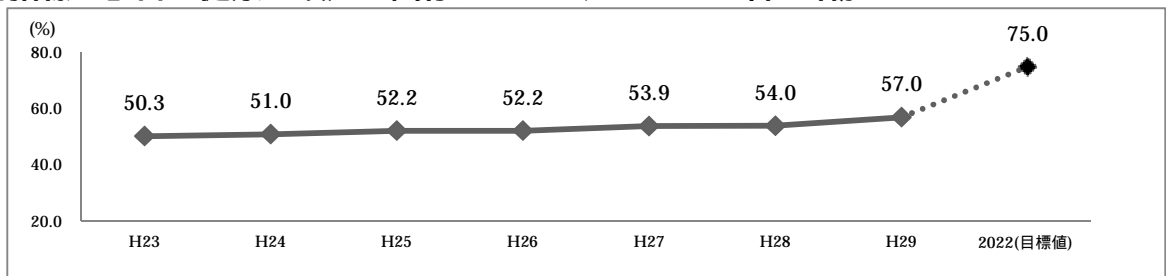
胎児期・妊娠期 指標項目：1～3

【目標】 口腔の健康を通して、健やかな妊娠生活を支援します

現在までの主な取り組み

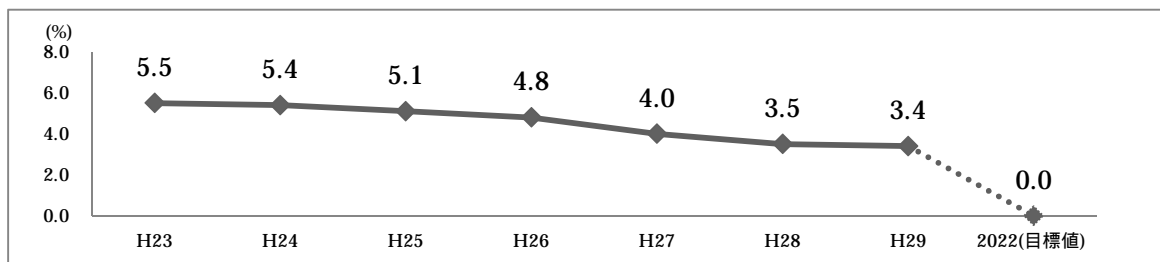
- ・妊婦歯科健診相談 ・歯科健康相談 ・歯科健康教育（地域や産科医療機関）
- ・妊婦歯科健診の受診勧奨（産科医療機関、区役所）など
- ・地域のイベントやホームページ、広報紙などによる歯科保健情報の提供

【指標1】 口の健康と喫煙の関係について知っている者の増加



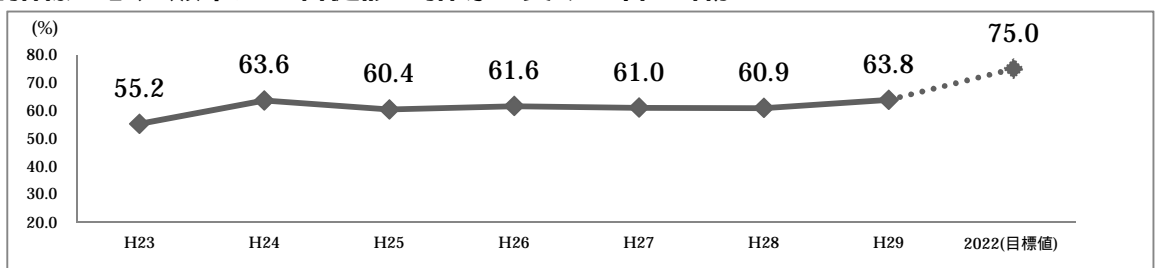
出典：熊本市妊婦歯科健診結果

【指標2】 妊娠中の喫煙をなくす



出典：【熊本市】親子（母子）健康手帳交付時間診

【指標3】 妊娠中に歯科健診・指導を受ける者の増加



出典：熊本市妊婦歯科健診結果

課題

歯周病が早産・低体重児出産のリスクであることや喫煙が歯周病や子どものむし歯と関連性が深いことについて、約4割の市民が知らない状況である。

今後の主な取り組み

喫煙や歯周病による妊婦と胎児への影響などに関する歯科保健情報提供の充実を図る。

歯科健診を受ける妊婦が増えるよう妊娠期からの医科歯科連携の推進を図る。

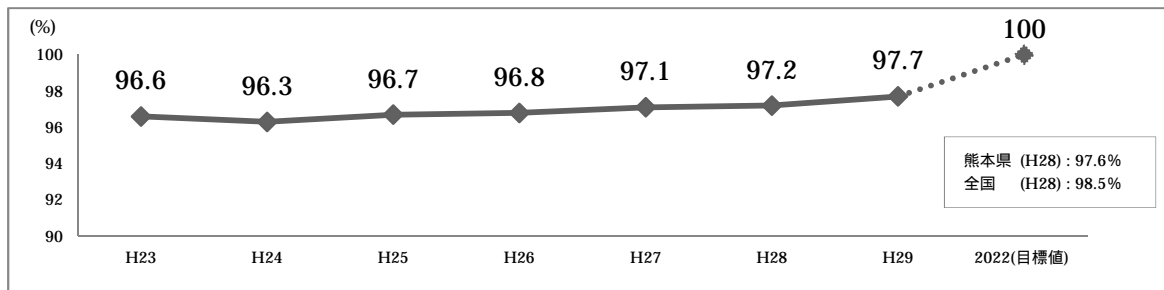
乳幼児期 指標項目：4～8

【目標】 乳幼児の歯と口腔の健やかな発達と楽しい育児を支援します

現在までの主な取り組み

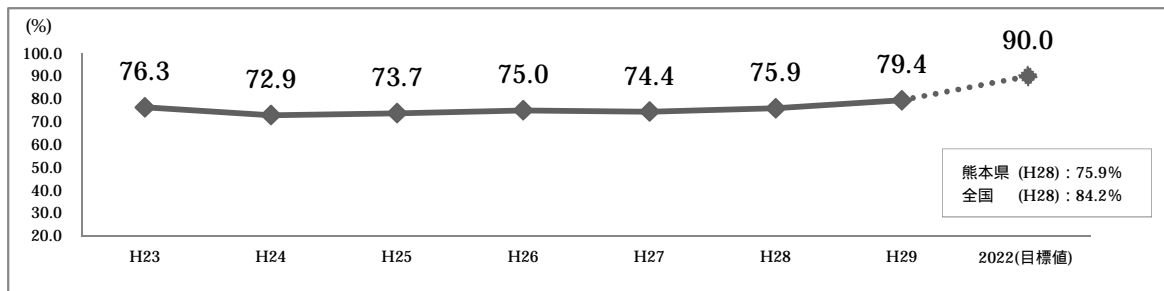
- ・ 1歳6か月児歯科健康診査 ・ 3歳児歯科健康診査 ・ 育児相談
- ・ 歯科健康教育（地域の子育てサークルや保育所・幼稚園など）
- ・ フッ化物洗口に関する説明会（園職員・保護者）
- ・ 園児向け歯みがき指導及びフッ化物洗口実技指導
- ・ 地域のイベントやホームページ、広報紙などによる歯科保健情報の提供
- ・ 関係団体と連携した「歯っぴー39チャレンジ」の取り組み
（むし歯予防リーフレット及び無料歯科健診券付き啓発カードを作成し、市施設や医療機関・薬局での配布など）

【指標4】 1歳6か月児でのむし歯のない者の増加



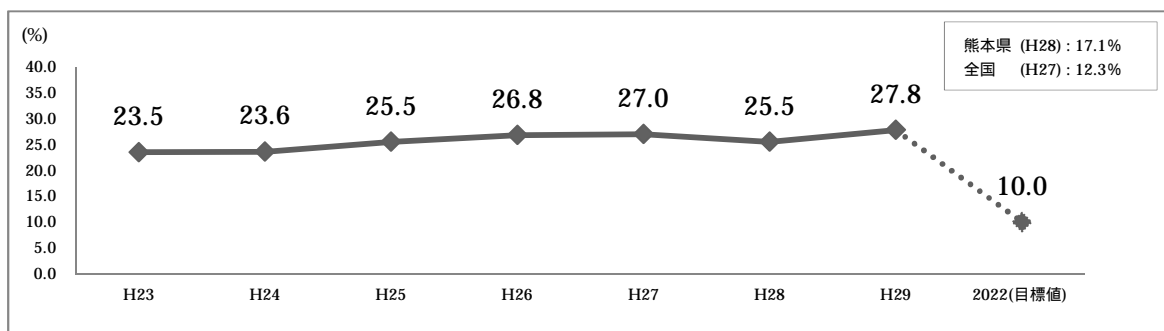
出典：【熊本市】1歳6か月児健康診査結果 参考値：【熊本県・全国】熊本県歯科保健状況調査

【指標5】 3歳児でのむし歯のない者の増加



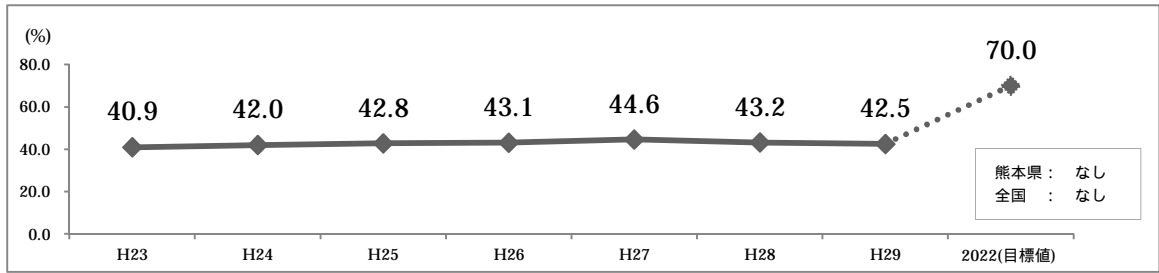
出典：【熊本市】3歳児健康診査結果 参考値：【熊本県・全国】熊本県歯科保健状況調査

【指標6】 3歳児での不正咬合等が認められる者の減少



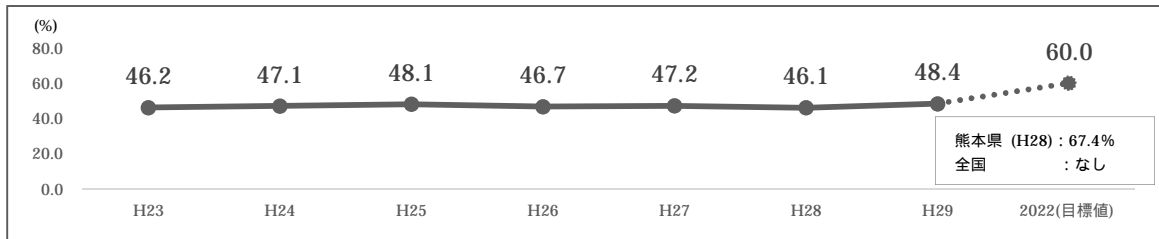
出典：【熊本市】3歳児健康診査結果 参考値：【熊本県・全国】熊本県歯科保健状況調査

【指標 7】3歳までに2回以上フッ化物塗布を受けたことがある者の増加



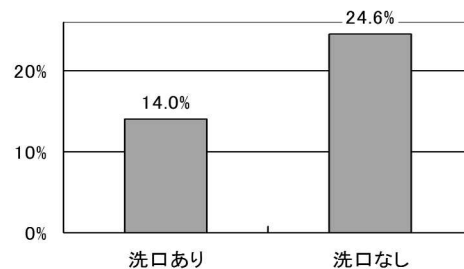
出典：【熊本市】3歳児健康診査結果

【指標 8】フッ化物洗口を実施する認可保育園・幼稚園の増加



出典：熊本県歯科保健状況調査 参考値：【熊本県】熊本県歯科保健状況調査

【フッ化物洗口実施後の第一大臼歯のむし歯有病者率の比較】



洗口あり(n=43)
*年中・年長の2年間週5日法を実施
洗口なし(n=61)
(2007年熊本市北区の小学2年生を追跡調査)

課題

1歳6か月児と3歳児においてむし歯がない者は増加傾向ではあるが、全国平均よりも低い状況である。

3歳児における不正咬合等が認められる者が増加している。

フッ化物洗口実施園は半数に満たない状況である。

今後の主な取り組み

「かかりつけ歯科医における定期的な予防管理」の定着に向けた更なる啓発の充実とともに医科歯科連携の推進を図る
関係機関及び団体との連携のもと、科学的な根拠に基づいたむし歯予防に関する口腔保健指導の充実を図り、「フッ化物の利用」を推進する。

家庭：フッ化物配合歯磨剤の使用

保育所・幼稚園など：フッ化物洗口の実施

歯科医院：定期的なフッ化物塗布の実施

3歳児において不正咬合がある者が増加している対策として、指しゃぶり等の不良習癖の改善に向けた情報提供の充実を図る。

良く噛んで食べる習慣の定着を図るため、一口30回噛む事を目標とした、

「噛ミング30（カミングサンマル）運動」の推進を図る。

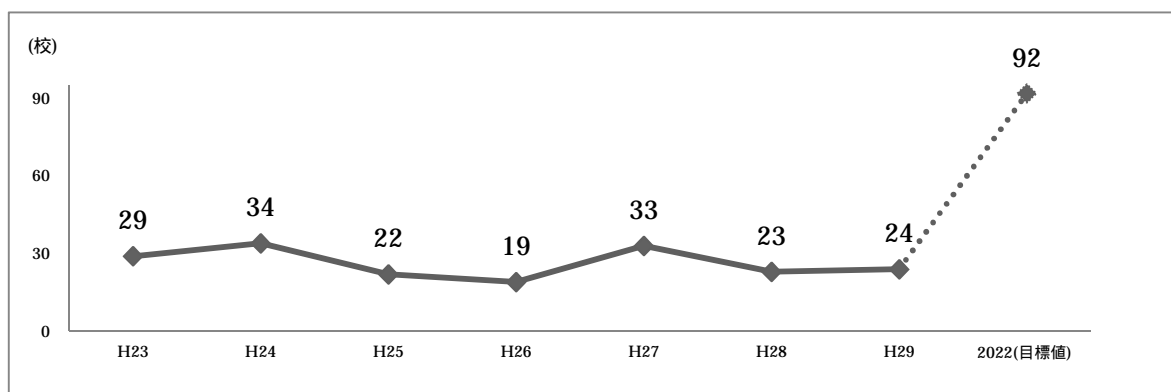
学童期 指標項目：9

【目標】 乳歯と永久歯の生え変わりが始まる時期。自分の口にあった歯みがき習慣を身につけ、むし歯や歯肉炎のない楽しい学校生活を支援します

現在までの主な取り組み

- ・ 就学前歯科健康診断 ・ 定期歯科健康診断
- ・ 歯科健康教育（歯みがき巡回指導含む） ・ 保護者対象の歯科講演会など
- ・ 歯科健康相談
- ・ 地域のイベントや広報紙などによる歯科保健情報の提供

【指標9】小学校でのむし歯や歯肉炎予防のための健康教室実施校の増加(区役所実施)



出典：【熊本市】健康くまもと21 歯科保健部会資料

課題

永久歯が生える大切な時期であるため、歯と口の健康づくりに関する予防意識を育むことが必要であるが、健康教室実施校は減少している。

今後の主な取り組み

むし歯や歯肉炎予防に関する歯科保健教育・指導を実施する小学校を増やし、歯・口の健康づくりに関心をもち実践できる児童を育成する取り組みの推進を図る。

むし歯予防効果が高いフッ化物洗口を全小学校において取り組む。

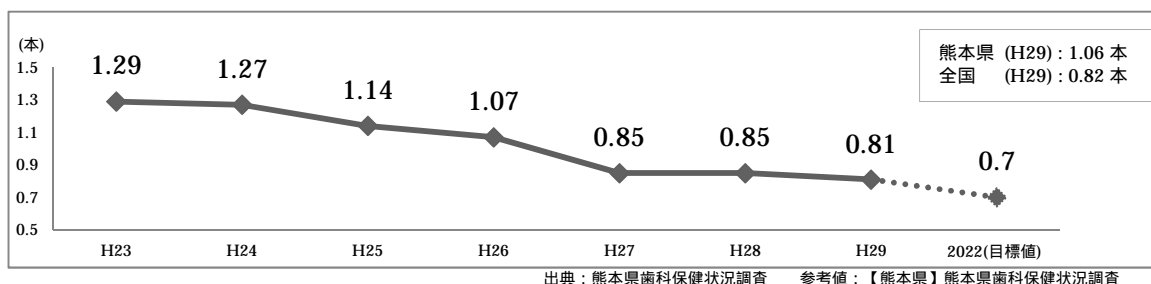
中・高生期 指標項目：10～12

【目標】生活習慣の改善により、むし歯や歯肉炎を減少させることができる中高生が増加するよう支援します

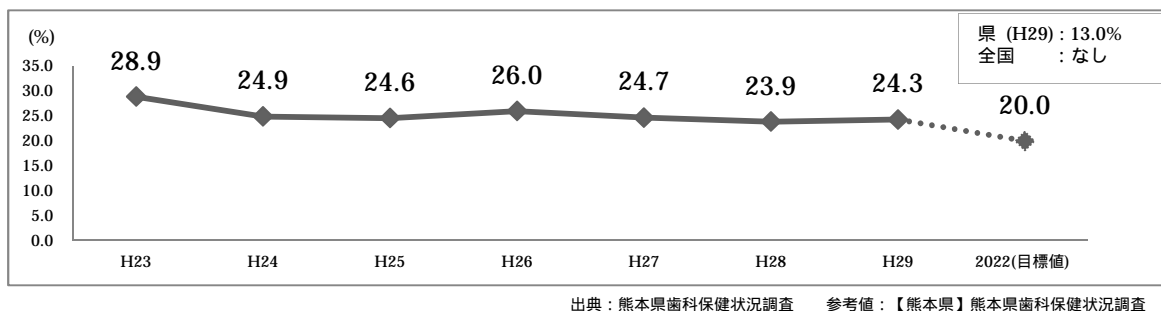
現在までの主な取り組み

- ・定期歯科健康診断
- ・歯科健康教育（歯みがき巡回指導含む）
- ・保護者対象の歯科講演会など
- ・歯科健康相談
- ・地域のイベントや広報紙などによる歯科保健情報の提供

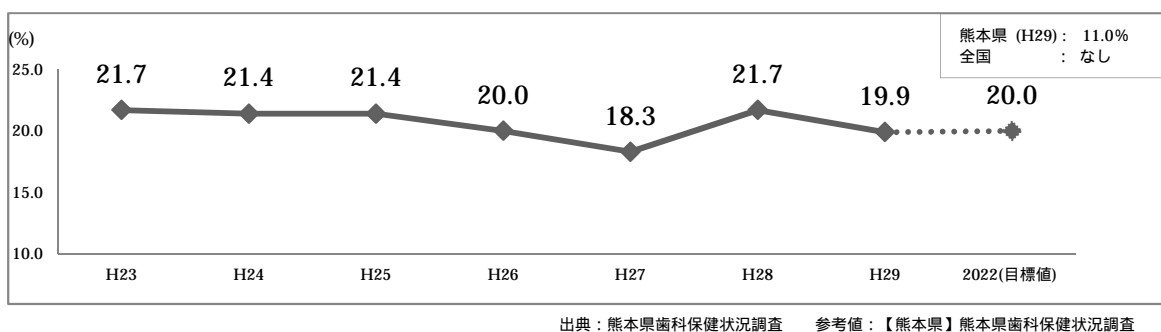
【指標 10】12 歳児でのむし歯のない者の増加（1 人あたりむし歯本数の減少）



【指標 11】中学生における歯肉に炎症所見を有する者の減少



【指標 12】高校生における歯肉に炎症所見を有する者の減少



課題

歯肉に炎症所見を有する者は減少傾向であるが、県内において多い状況である。

今後の主な取り組み

学校や学校歯科医との連携のもと、歯間部清掃補助道具（デンタルフロス・歯間ブラシ）の活用を含めた歯科保健教育・指導の充実を図り、歯肉炎予防対策の推進に取り組む。

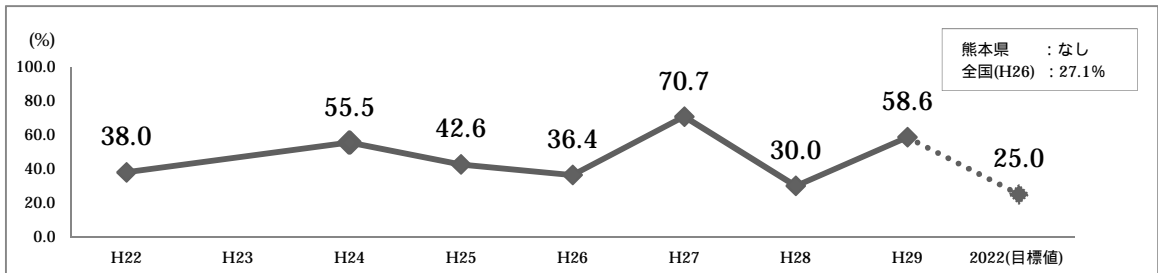
成人期 指標項目：13～22

【目標】 社会生活を送る上で、歯と口腔の健康づくりが重要である事を知り、自分にあった口腔ケアを獲得できるように支援します

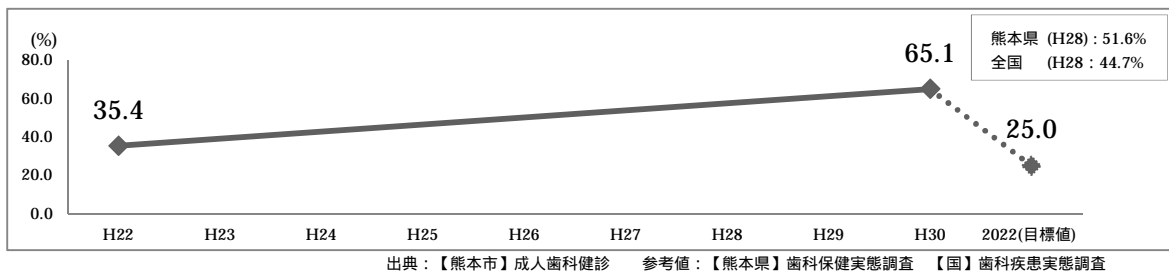
現在までの主な取り組み

- ・ 歯科健康教育 ・ 歯科健康相談
- ・ 大学学園祭や自動車学校における歯科啓発
- ・ 地域のイベントやホームページ、広報紙などによる歯科保健情報の提供
- ・ 成人歯科健康診査などの歯科保健状況調査（資料3参照）

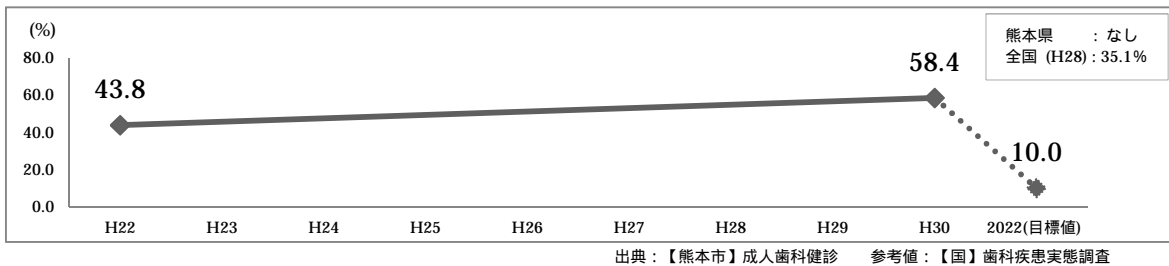
【指標 13】 20 歳代における歯肉に炎症所見を有する者の減少



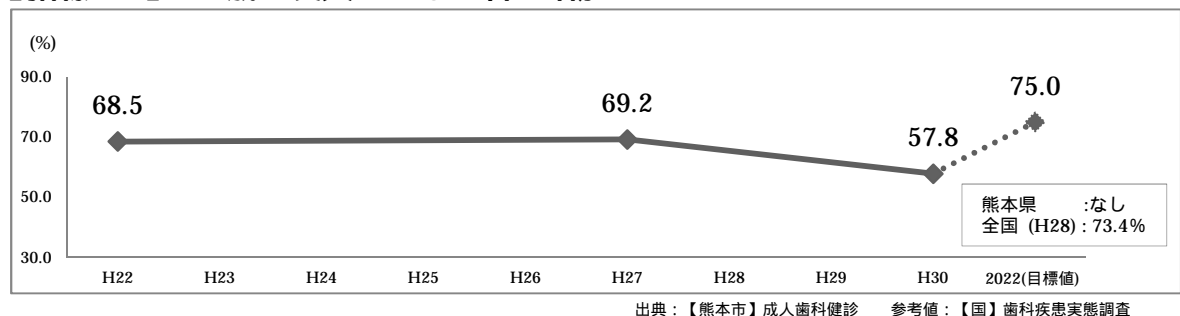
【指標 14】 40 歳代における進行した歯周炎を有する者の減少



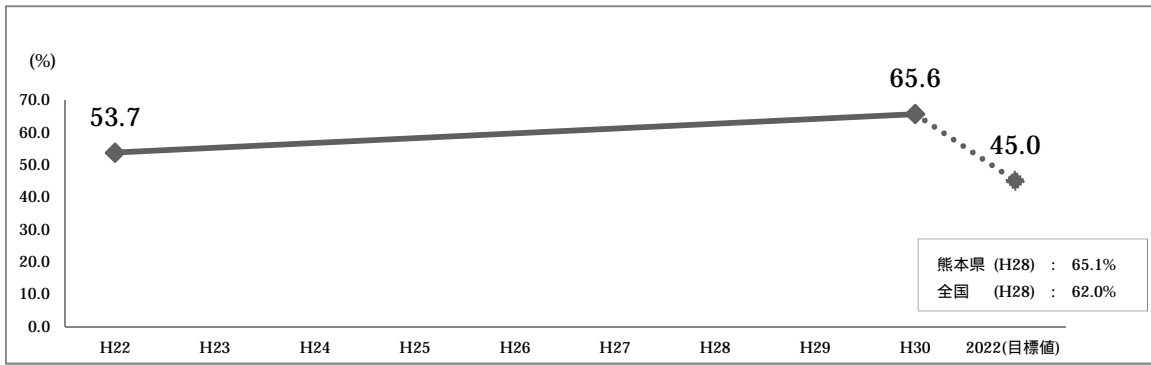
【指標 15】 40 歳の未処置歯を有する者の減少



【指標 16】 40 歳で喪失歯のない者の増加

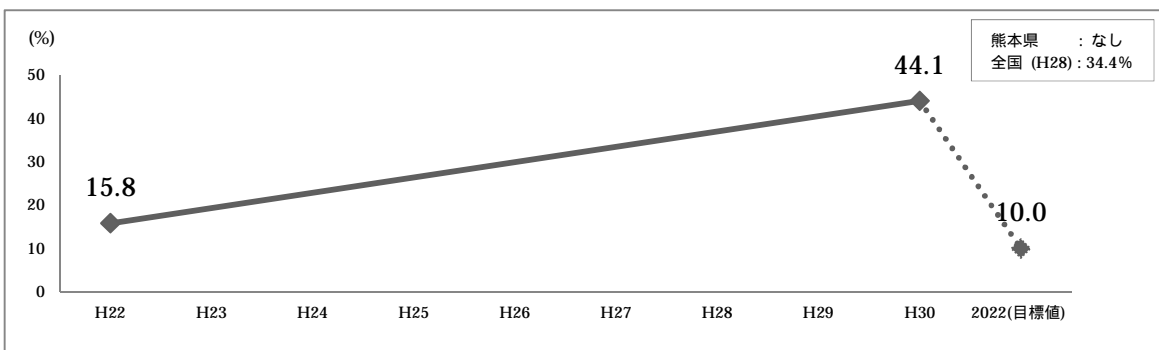


【指標 17】 60 歳代における進行した歯周炎を有する者の減少



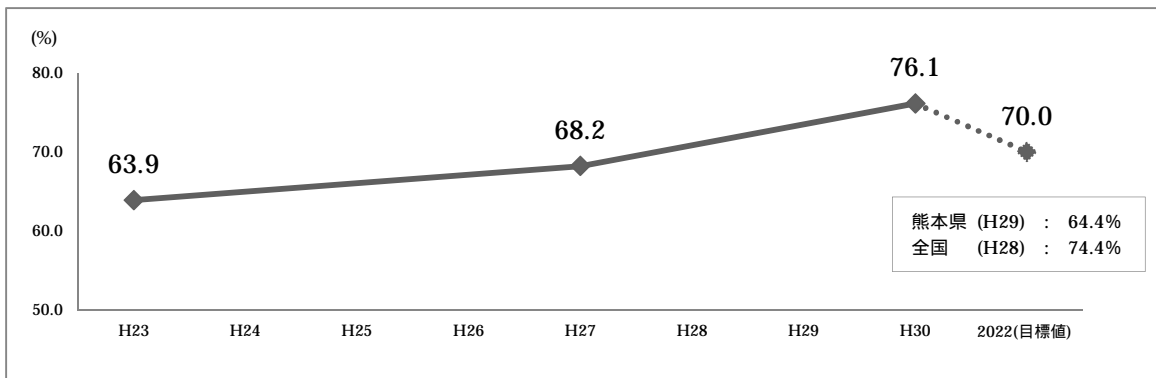
出典：【熊本市】成人歯科健診 参考値：【熊本県・国】歯科保健実態調査

【指標 18】 60 歳の未処置歯を有する者の減少



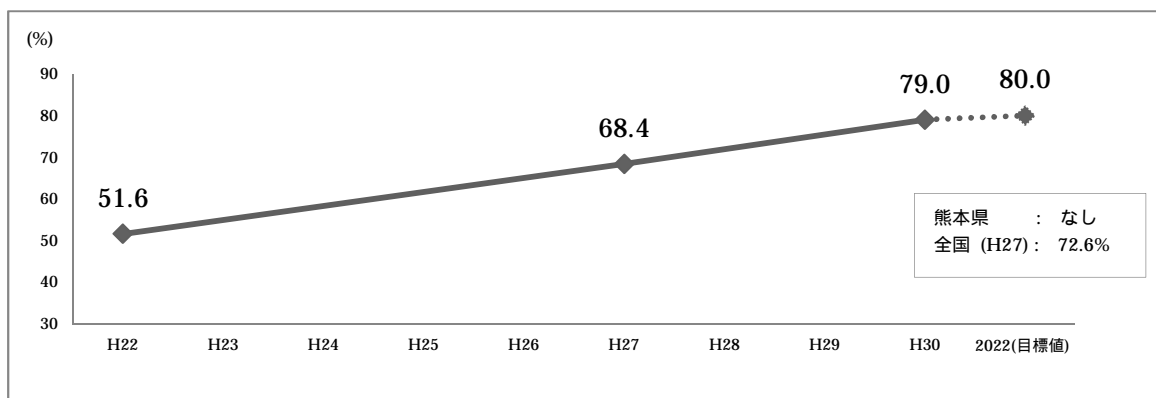
出典：【熊本市】成人歯科健診 参考値：【国】歯科保健実態調査

【指標 19】 60 歳で 24 歯以上の自分の歯を有する者の増加



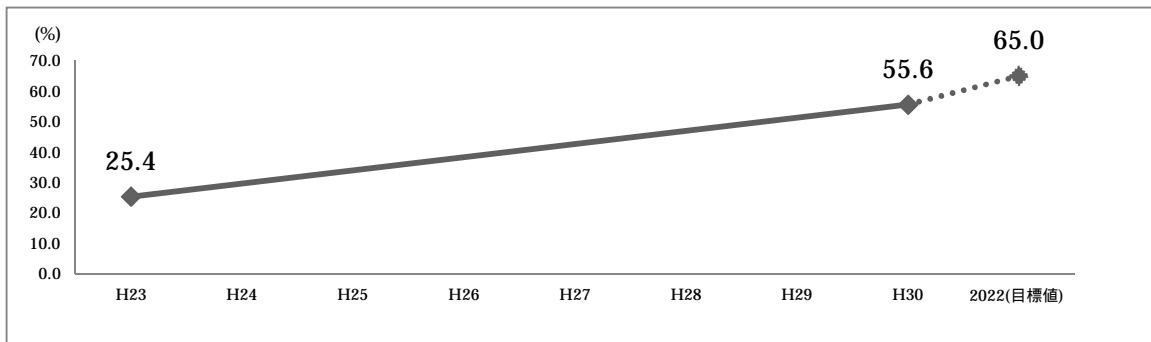
出典：【熊本市】健康づくりに関する市民アンケート 参考値：【熊本県】熊本県健康・食生活に関する調査 【国】歯科疾患実態調査

【指標 20】 60 歳代における咀嚼良好者の増加



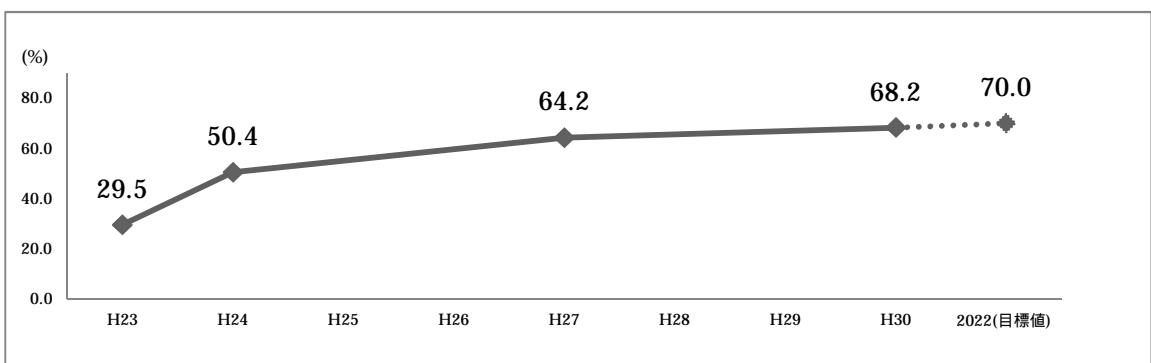
出典：【熊本市】健康づくりに関する市民アンケート 参考値：【国】歯科疾患実態調査

【指標 21】 定期検診を受ける者の増加



出典：健康づくりに関する市民アンケート

【指標 22】 口の健康と喫煙の関係について知っている者の増加



出典：健康づくりに関する市民アンケート

課題

20代において歯肉炎を有する者が半数以上いる。

40代、60代ともに、進行した歯周病（4mm以上の歯周ポケットを有する）に罹っている者が増加している。

40代、60代ともに、むし歯や抜歯したままの歯があるなど、治療せずに放置している者が増加している。

今後の主な取り組み

歯科疾患の予防の重要性などについて、若い世代への啓発を強化する。

かかりつけ歯科医を持ち、定期的に歯科健診を受ける市民が増えるような取り組みを推進する。

若いうちから歯間部清掃補助道具（デンタルフロス・歯間ブラシ）の使用が定着するための普及啓発やかかりつけ歯科医での具体的な指導の強化を図る。

むし歯や歯周病が全身に及ぼす影響について関係団体と連携して啓発を強化する。

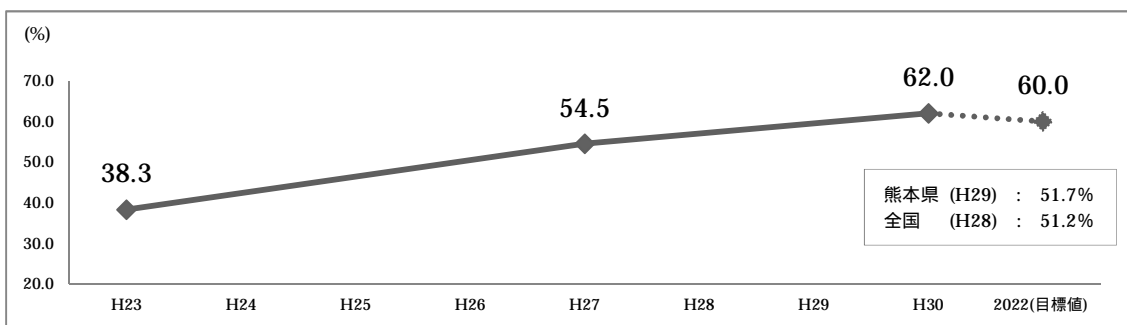
高齢期 指標項目：23～24

【目標】 歯の喪失等による口腔の機能の低下を防止し、「食べること」を通じて積極的に社会活動ができるように支援します

現在までの主な取り組み

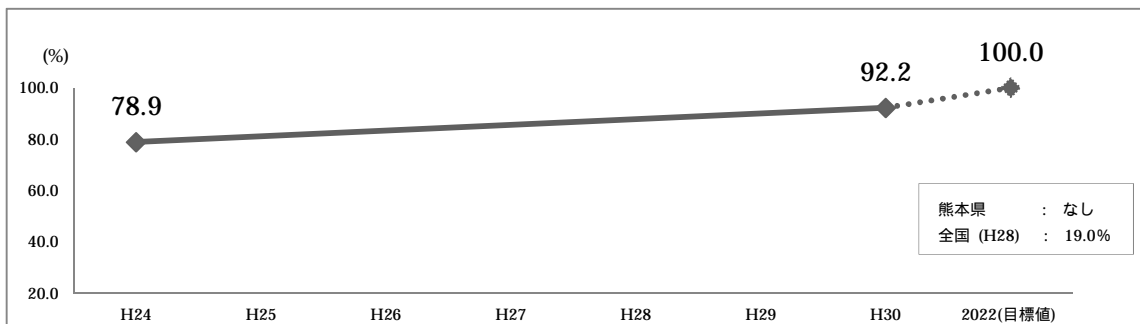
- ・ 歯科健康教育（老人会や高齢者サロンなど） ・ 歯科健康相談
- ・ 8020 表彰などの歯科啓発
- ・ 後期高齢者歯科口腔健診事業
- ・ 地域のイベントやホームページ、広報紙などによる歯科保健情報の提供

【指標 23】 80 歳で 20 歯以上の自分の歯を有する者（8020 達成）の増加



出典：【熊本市】健康づくりに関する市民アンケート 参考値：【熊本県】熊本県健康・食生活に関する調査 【国】歯科疾患実態調査

【指標 24】 介護老人福祉施設・介護老人保健施設での定期的な歯科検診実施率の増加



課題

介護施設における定期的な歯科検診を実施している施設は増加傾向ではあるが、施設における口腔管理については、定着しているとは言えず、家族や介護職員の口腔衛生意識に左右される状況である。

今後の主な取り組み

高齢者の口腔機能維持・向上に関する支援対策の推進を図る。

施設職員や多職種などを対象とした研修会等を行い、口腔衛生意識の向上を図る。

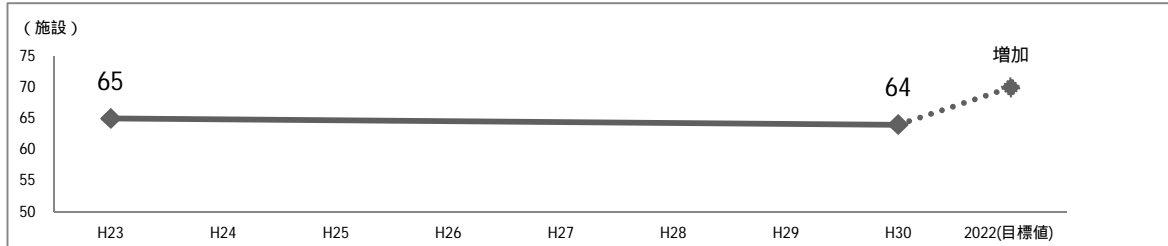
関係団体と連携し、8020 運動の推進とともにオーラルフレイル予防の取り組みを推進する。

*オーラルフレイルとは、「食べこぼしやむせる、噛めない食品が増えた」など、歯と口の機能の衰えのこと。

現在までの主な取り組み

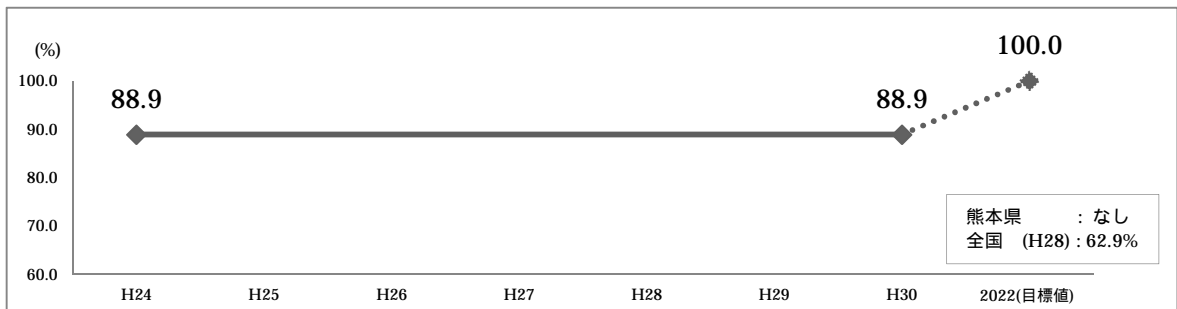
- ・ 障がい児者などの施設における歯科健康教育と歯科相談
- ・ 8020 推進員（歯科保健推進ボランティア）の育成や活動支援
- ・ 関係団体との協働による地域イベントでの歯科啓発
- ・ 関係団体と連携した研修会の開催

【指標 25】障がい児（者）の種別毎の受入歯科医療施設の増加



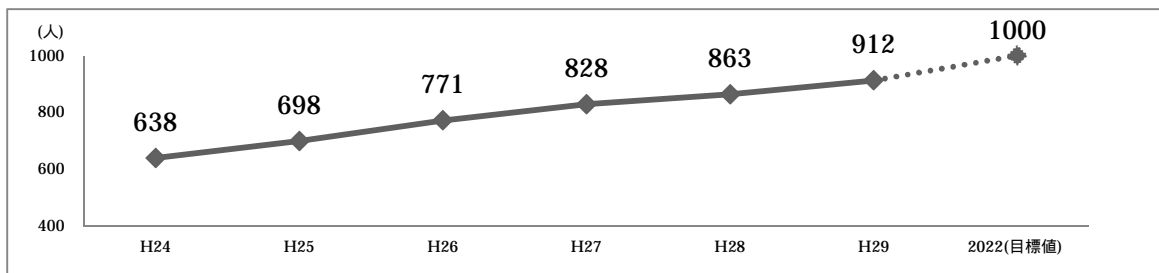
出典：熊本県障がい者支援課調べ

【指標 26】障がい児（者）入所施設での定期的な歯科検診実施率の増加



出典：【熊本市】障がい児(者)入所施設アンケート調査 参考値：【国】厚生労働科学特別研究

【指標 27】8020推進員の育成数の増加（累計）



出典：熊本市 8020 推進員育成事業報告

課題

障がい児者を受け入れる歯科医療施設が 1 施設減少しており、歯科保健医療体制の充実が必要である。

障がい児者入所者に対して歯科検診を実施している施設は増加していない。

今後の主な取り組み

障がい児者の受け入れ体制の充実を図る。

障がい児者の施設職員などの多職種や保護者を対象とした研修などを行い、口腔管理や予防の重要性などについて啓発し、口腔衛生意識の向上を図る。